

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

FD 推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」の Web 実施によって回答率向上のための施策検討が重点目標のひとつになっているが、このアンケートが教員の資質向上に果たした役割は大きいとみられるので、その項目の見直しとともに、その成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、各分科会・学部教授会の方の合意を取り付けた「カリキュラム・フレームワーク」の具体的な取り組みと、実質的なカリキュラムの体系化の方途の検討に期待したい。

小金井リベラルアーツセンターでは、国際化に対応できる英語力の強化、理系基礎科目の点検・強化が重点目標として設定されており、その目標は明確であるためその成果に期待したい。

学習環境支援センターでは、学習環境支援に関係する部局職員による「相互連携の創意工夫」を重点目標として掲げ、ボトムアップ型の会議体の運営・組織づくりを目指して学生の学習環境支援を充実させようとしていることは、ひとつのあり方として評価できる。とくに、校舎建替え工事に伴う学習環境への影響については特段の配慮を願いたい。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

アンケートの回答率向上のため、学生モニターによるヒヤリング、アドバイザリーボード会議での意見を踏まえ、各 FD プロジェクトの連携による協力のもと、2015 年度中にできる施策としてつぎの項目を実施した。

- (1) 広報周知の実施 看板、ポスターの掲示、郵送による 1 年生へのアンケート実施の周知
- (2) Web 関連 お知らせ配信の実施、未回答者へのリマインドメール、教員へのリマインドメール、大学 HP、Facebook への掲載
- (3) 校内放送の実施
- (4) アンケート期間の延長

アンケート期間の延長やリマインドメールなどによる一定の効果は見られたが、全学での回答率は 6.2%であった。抜本的な改善を図るため、アンケート項目、実施方法の見直しなど 2017 年度春学期実施に向けた提案を学部長会議にしておく予定である。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①教員の質の維持・向上に取り組んでいますか。

A	B	C
---	---	---

(～400 字程度まで) ※教員の質の維持・向上のためにどのような取り組みが行われているか概要を記入。

教育開発支援機構 FD 推進センター全体、センター内のプロジェクト、各プロジェクトの連携による取り組みとして、教員の質的向上を図るための方策を実施し恒常的な検証を行っている。各プロジェクトの方策は、以下のとおりである。

- (1) FD 計画プロジェクト：教育の質的向上に向けた全学的活動の推進のための情報収集、分析、施策の企画・立案・提案。
- (2) FD 調査プロジェクト：「学生による授業改善アンケート」の実施・改善、アンケート結果の集計・分析、報告書の発行。GPA の活用方法の検討と提案。
- (3) FD 開発プロジェクト：具体的な支援のための方法・ツールについての情報収集、分析、情報提供および提案。具体的には、法政教員の輪の記事公開、FD イベントビデオの収録および公開。
- (4) FD 推進プロジェクト：新任教員オリエンテーション、新任教員セミナー、教職員研修、シンポジウム・セミナー等の企画・実施、「法政大学教育研究」の編集・発行、各学部等における取り組みの支援、学生 FD スタッフ活動の支援。
- (5) FD 広報プロジェクト：FD 学生の声コンクールの開催、HP・関連冊子による情報発信（FD ハンドブック WEB 版、「学習支援ハンドブック」、「FD 学生の声コンクール新聞」等）。

さらに 2012 年度より新任教員 FD セミナーを実施し、各学部教授会等が主体となって実施する「授業相互参観」を導入、継続実施や FD ニュースレターを発行するなど、各学部で行われている FD 活動の紹介等も行っている。

また、授業改善アンケートの Web 化に伴い、従来のアンケート結果の提示方法を変更し、要望により各学部教授会等へのフィードバックを早くできる方式に変更した。

新たな試みとして、学生の視線からの授業方法の改善の一環として、「授業改善学生モニター」を提案した。2016 年度は、先行実施として、主に新任教員を対象に行う予定である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・アカデミックサポートサービス告知資料
- ・各イベント告知資料（第 4 回新任教員 FD セミナー・第 14 回 FD ワークショップ・第 10 回 FD フォーラム・第 9 回 FD ミーティング・学生ピア・ワークショップ）
- ・2014 年度春学期 GPCA 集計表（学部、大学院、専門職大学院）
- ・2014 年度期末「学生による授業改善アンケート〈期末〉」全学集計結果報告書
- ・2015 年度春学期 GPCA 集計表（学部、大学院、専門職大学院）
- ・2015 年度春学期「学生による授業改善アンケート〈期末〉」全学集計結果（学部・大学院）
- ・2015 年度授業相互参観実施状況報告書
- ・法政教員の輪 第 6 回～第 15 回 (<http://fd-handbook.ws.hosei.ac.jp/>)
- ・FD ハンドブック WEB 版 (<http://fd-handbook.ws.hosei.ac.jp/>)
- ・第 4 回新任教員 FD セミナーのビデオ公開（学内限定）(http://fd-handbook.ws.hosei.ac.jp/event/fd_seminar_new04/)
- ・「法政大学教育研究」（第 6 号）
- ・「学習支援ハンドブック 2015」
- ・「FD 学生の声コンクール新聞」
- ・「FD 推進センターNewsletter」（第 9 号～第 15 号）

（2）特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・学生目線からの授業改善の一環として「学生による授業モニター」制度の提案を行った。2017 年度の本格実施を想定し、2016 年度は、先行実施として、主に新任教員を対象に行う予定である。	

（3）現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・「学生による授業改善アンケート」の Web 化に伴い、各学部によりばらつきがあるが、回答率が全学平均 6.2%に留まっている。アンケートの結果自身は、紙ベース実施時と比較して特段の変化は見られないが、回答率が低いことは授業改善のために有効であるとは言いがたい。経年変化を見る上では、アンケート項目、実施方法などの年度途中の変更は適切ではないため、2017 年度春学期実施に向けてアンケート項目、実施方法など抜本的な変更を学部長会議に提案する。
--

【この基準の大学評価】

FD 推進センターでは教員の質の維持・向上のため、組織全体として複数の FD プロジェクトに取り組み、継続して様々な施策を実施・推進されており、高く評価できる。また施策の効果を検証し、方法の変更や新しい試みを行っている点も、大変優れている。また、「学生による授業改善アンケート」が Web 化されて回答率が低くなったという問題については、2017 年度に向けて、アンケート項目や実施方法の抜本的な変更が提案されたので、回答率は上がると期待される。そして、個々の教員が独自に行う期中アンケートやリアクションペーパー等と一種の住み分けができると期待される。

2 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

（1）点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・2015年度は、各学部教学単位の代表者で構成されるアドバイザーボード会議を3回開催（教員委員の出席率は、第1回55%、第2回70%、第3回80%）し、意見を伺い、各FDプロジェクトへの助言・提案およびチェックを受けた。
- ・各FDプロジェクトの運営については、10回のプロジェクトリーダー会議を開催し、各プロジェクトの活動や提案事項についての相互チェックを行った。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

各学部からの出席者で構成されるアドバイザーボード会議が、規程にもあるように各FDプロジェクトへの助言・提案およびチェックを行っていることで、質保証活動が適切に行われていると認められる。また各プロジェクトのリーダーが、活動や提案事項について相互チェックを行っていることも、高く評価できる。

市ヶ谷リベラルアーツセンター

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb実施によって回答率向上のための施策検討が重点目標のひとつになっているが、このアンケートが教員の資質向上に果たした役割は大きいとみられるので、その項目の見直しとともに、その成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、各分科会・学部教授会の大方の合意を取り付けた「カリキュラム・フレームワーク」の具体的な取り組みと、実質的なカリキュラムの体系化の方途の検討に期待したい。

小金井リベラルアーツセンターでは、国際化に対応できる英語力の強化、理系基礎科目の点検・強化が重点目標として設定されており、その目標は明確であるためその成果に期待したい。

学習環境支援センターでは、学習環境支援に関係する部局職員による「相互連携の創意工夫」を重点目標として掲げ、ボトムアップ型の会議体の運営・組織づくりを目指して学生の学習環境支援を充実させようとしていることは、ひとつのあり方として評価できる。とくに、校舎建替え工事に伴う学習環境への影響については特段の配慮を願いたい。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2015年度中に、2017年度の新カリキュラム実施に向けて、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の現行各科目につき「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目（教養ゼミ含む）」へのコマの再配置案をまとめた。2016年度は、修正フレームワーク案の承認を市ヶ谷関連6学部より得、より具体的な科目名称の決定、体系性の検証などを行い、カリキュラム体系化の実質的な施行・運営が可能となるよう協議・検討を進める。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【市ヶ谷リベラルアーツセンター執行部の構成、分科会の名称・役割・責任体制】※箇条書きで記入。

- ・執行部は正・副市ヶ谷リベラルアーツセンター長並びに学務部次長・事務主任により構成されている。
- ・人文科学・社会科学・自然科学・情報・英語・諸語・保健体育の各分野を統括する分科会には委員長、各科目には科目責任者をおいている。
- ・学部の特化した基礎科目（一部の「基礎ゼミ」）については、該当学部の教授会主任を科目責任者とするとし、責任の所在の明確化を計っている。
- ・分科会・学部によって、以下のような責任体制を整えている。

自然科学分科会では「自然総合講座（サイエンス・ラボ）検討委員会」を設置している。
 英語分科会では兼任教員との連絡を担当する「ゾーン責任者」、学部との連携を担当する「学部担当者」、更に「質保証委員会」、「カリキュラム委員会」が設置されている。
 法政学の運営は「法政学運営委員会」で行われ、正・副委員長をおいている。
 キャリア関連科目については、「キャリア教育プログラム運営委員会」を新たに設置し、必要な役割分担を行うこととしている。
 法学部では「基礎教育連絡会議」が設置されている。
 文学部では学科ごとに「基礎ゼミ」の質保証活動を行っている。
 経営学部では「教養教育担当者会議」、「英語教育担当者会議」が設置されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「市ヶ谷リベラルアーツセンター規程」、「市ヶ谷リベラルアーツセンター規程施行細則（内規）」

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400 字程度まで) ※リベラルアーツセンターの提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。
 教育開発支援機構長・正・副センター長・分科会委員長・「基礎ゼミ」科目責任者を含む市ヶ谷 6 学部教授会執行部主任によって構成される運営委員会、人文科学・社会科学・自然科学・情報・英語・諸語・保健体育の各分野に科目責任者、およびそれを統括する分科会委員長を持つ分科会、「法政学への招待」を管理運営する法政学運営委員会、キャリア教育に関わるキャリア教育プログラム運営委員会などを置き、カリキュラムの実質的な責任を負っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「2016 年度市ヶ谷基礎・総合科目責任者」一覧

1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）等内の F D 活動は適切に行われていますか。

A B C

【FD 活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・授業改善アンケートを分野別・言語別・学部別等に集計し、その集計結果を FD の素材として各分科会・学部で共有している。
- ・3 種類の授業参観（相互授業参観、新人研修としての授業参観、ビデオカメラを用いたセルフ授業参観）を設定し、各分科会・学部の状況に合わせた形式で実施している。
- ・センター内に内部質保証委員会を設置し、質保証についての検討を適宜行っている。

【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・授業相互参観；4 件（2015/5/30・10/22・11/12・12/2・12/17）
- ・セルフ授業参観；1 件（2015/11/12）
- ・内部質保証委員会開催；2016/3/28、80 年館 7 階丸会議室・現状分析シートに基づく自己点検活動振り返り・7 名

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「2015 年度内部質保証委員会議事メモ」、「(ILAC 独自) FD 授業参観実施結果報告」、「現状分析シート」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・自己点検評価活動用の「現状分析シート」の見直しを行う。
- ・分科会、科目ごとの FD 活動をより活発にすべくその方途を検討する。
- ・3D 教育システムスタッフ会議に代わり、キャリア関連科目を管轄する「キャリア教育プログラム運営委員会」の適切かつ円滑な運営を行う。

【この基準の大学評価】

規程に基づき、市ヶ谷リベラルアーツセンターは執行部を構成し、各分科会には委員長、各科目には科目責任者を置き、また学部の特化した基礎科目についても科目責任者が指定され、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしている。全体のカリキュラムについては運営委員会、分科会のカリキュラムについては分科会運営委員会、各科目のカリキュラムについては科目責任者が、教員配置に関する実質的な責任を負っている。FD活動については、授業改善アンケートの結果が共有され、授業参観の方法も複数準備されており、適切に行われている。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されているか。	A B C
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、0群から5群の科目群からそれぞれ万遍なく科目履修をすることで、多岐の分野に亘る教養が身につけられるようなカリキュラム編成をおこなっている。 さらに、2014年度中に分科会・市ヶ谷関連6学部で大枠で承認された、2017年度より実施予定のカリキュラム体系化の骨子となる「カリキュラム・フレームワーク」をより現実的に即した形に修正すると同時に、具体的なカリキュラム構築作業を進めている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2015年度カリキュラム委員会議事メモ	
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 初年次教育については、0群に設置されている「基礎ゼミ」は原則、各学部が担っている。また、人文科学分科会には大学生として必要なリテラシー能力や論文作成能力を育てる「文章論」という科目を設置している。 キャリア教育については、「キャリアデザイン入門および演習」がやはり0群に設置されている。 2011年度に設置された自校教育科目「法政学への招待」は、2015年度に新たに設置した「法政学の探究」で学生生活やスポーツも含め受講生各自の関心のあるテーマを掘り下げて研究することで、より深い自校教育を学生に提供できるようになっている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政学運営委員会・キャリア教育プログラム運営委員会議事録等	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2017年度のカリキュラム体系化改革に向けて、「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目(教養ゼミを含む)」のそれぞれについて、科目名称、科目数、コマ数などについて具体的に確定していく。

【この基準の大学評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、幅広い教養を身につけられる科目を0群から5群まで分類し、学生に各科目群から万遍なく科目履修させることで、総合的な判断力を培うことのできる教育課程を編成している。2017年度より実施される「カリキュラム・フレームワーク」によって、さらに豊かな人間性を涵養する教育課程を編成することが期待される。また0群に設置されている「基礎ゼミ」や「キャリアデザイン入門および演習」といった科目によって、初年次教育とキャ

リア教育も適切に提供されている。

自校教育科目として「法政学への招待」「法政学の探究」といった独自の取り組みが行われていることは、学生が身につけられる教養の幅を広げるといっても高く評価できるが、受講者の増加のための措置が取られることが期待される。

市ヶ谷だけでなく、多摩、小金井においても、それぞれの特色を踏まえて、自校教育やキャリア教育、さらには準備中のミュージアム、確定した法政大学憲章などを視野に入れて、法政大学らしいリベラルアーツの構築が期待されている。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・学生の履修指導は、学部の履修要項と、市ヶ谷リベラルアーツセンター発行の冊子版シラバス（各科目のシラバスの要約を記載した冊子）と、全学共通仕様の Web シラバスで行っている。
- ・全般的な履修説明を学部ガイダンスで行うと共に、英語分科会では学部ガイダンスの場で独自の履修説明を行っている。また、保健体育分科会では、学部執行部に依頼して学部ガイダンスに必要事項を反映させて行うケースと、その場において独自に履修説明を追加するケースが共存している。その他、特別なガイダンスが必要な科目においては、各科目担当者が初回の授業内でのガイダンスを行っている（例；自然総合（サイエンス・ラボ）A・B、スポーツ総合演習）。
- ・窓口での履修指導は、各学部窓口と市ヶ谷リベラルアーツセンター事務局が共同して対応している。各科目には、専任教員の科目責任者を配置し、必要に応じて、科目責任者による指導も行う。保健体育分科会では、保健体育課窓口でも履修指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

シラバスによる指導方針を明示し、個々の教員はオフィス・アワーを設定して個別指導を行っている。

また、各分科会はそれぞれ独自の学習指導体制を整えており、基礎ゼミ、自校教育関連科目、キャリア教育関連科目のそれぞれの科目においても、それぞれを主管する組織体（Ⅱ1.1①参照）が独自に、適切な学習指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「市ヶ谷基礎科目シラバス」、「各学部履修の手引き」

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

シラバスにおける【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】を明示することで、学生の学習時間を確保することに努めている。この項目の記載については2015年度にすべての科目に関してシラバスチェックを行い、その指示が適正に行われていることを確認した。これに加えて、各分科会、基礎ゼミ担当学部、キャリア教育関連科目担当者がそれぞれに独自の方策をとっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「市ヶ谷基礎科目シラバス」、「各学部履修の手引き」

④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。

A B C

【具体的な科目名および授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・個別授業における新たな授業形態の導入状況を把握すると共に、学生にもそれが理解されることを目指し、2014年シラバスから、新たに「授業の概要と方法」の欄にPBL（問題または課題解決型授業）・グループワーク・プレゼンテーションの有無を記入項目として設定した。その結果、現在では多くの科目でこれらの方法を導入している。

- ・分科会単位で行われている特筆すべき取り組みは、以下の通りである。

自然科学分科会では「自然総合講座（サイエンス・ラボ）A・B」において、班分けすることによってグループで課題に取り組む環境を設定し、アクティブラーニングによる教育効果の向上に努めている。

英語分科会では、リスニングの自己学習を促すために、インターネット上の無料リスニング教材を紹介するハンドブックを作成し、一部授業内で配布・指導している。また、エッセイライティングの手引きとなるハンドブックを作成し、

一部授業でパイロット的に使用したが、今回これを改訂し、2015年度の一部の授業では本格的な補助教材として使用している。

基礎ゼミ（文学部）では、高校生を大学生にするべく、主体的な学びの姿勢を修得させるために、プレゼンテーションやディスカッション、グループワークを積極的に採り入れる授業形態にしている。

「法政学への招待」（自校教育）では自分の通う大学について知る新しい科目として、オムニバス形式でその都度適切な講師のキャスティングを行う一方で、常に授業責任者も参加することで、科目としてのつながりを維持できるように努めている。毎回、授業の最後にクリッカーを使った小テストを行い、学習内容を確認させている。更に神宮球場での六大学野球入場券を無料配布し、授業で扱った校歌を、実際に応援の場で歌う機会を提供している。最終回の授業では、グループワーク形式で授業内容に基づいた大学の将来に対する提言を作成し、優秀な提言には総長が賞を与えることで大学に対する貢献の場を提供する。学期末の試験は「法政学検定」とし、合格者すなわち単位取得者には特製の「検定合格証」を授与している。また、「法政学の探究」では、ゼミナール形式の開講科目にすることによって、より深耕した自校教育を行っている。

キャリア教育関連科目では、独自に作成したビデオ教材を用いて、大学で学ぶことが将来の仕事にどう役立っているのかを理解させたり、グループディスカッションでテーマ設定をして意見交換をさせるなど、学生の参加意識を高めるようにしている。また2013年度には就業力を構成するコンピテンシーを測るために独自に開発した測定テスト（HAT）を受講者に対して実施したり、インターンシップの新方式として考案した、企業との提携によるビジネスコンテストへの受講生の参加など、授業の内外で動機付け・スキル取得・スキームの実践を図り、科目の持つ達成指標への到達度向上と同時に指標そのもののレベルアップに役立っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・2012年度より冊子版シラバスに掲載する情報を絞り込み、Webシラバスと合わせて活用することで、学生にとっての利便性が高まるよう努めた。
- ・2013年度シラバスからは、所定のフォーマットで記入されていない原稿を事務局でチェックし、必要に応じて教員に訂正を促すことで、適正なシラバス作成が行われるようにした。
- ・2014年度からは、新任教員の記述については各分科会委員長が内容をチェックすることとした。0群「基礎ゼミ」（文学部）、3群「自然総合講座（サイエンス・ラボ）A・B」、5群「スポーツ総合演習」「法政学への招待」（自校教育科目）・キャリア教育関連科目では、運営委員会や担当者全員でシラバスの確認・検証を行っている。
- ・2015年度にはすべての科目について、主に【授業計画・成績評価の基準・授業外に行うべき学習活動】の三項目についてシラバスの確認・検証を行い、必要に応じて担当者にシラバスの修正依頼をし、適正化に努めた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「カリキュラム・ポリシーに基づくシラバス掲載内容の第三者確認の実施について（依頼）」

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・担当教員に、新年度シラバス入力時に、当該年度の授業シラバスに追加した「(事)後シラバス」項目の入力を依頼し、シラバス各項目の達成度の自己評価を数値化して測定している。
- ・英語分科会では、各学期終了後、必修科目担当者に、授業が科目の目的に沿って実施されたかを問う独自アンケートを行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「2015年度後シラバス入力結果一覧」、「2015年度 後シラバス 自由記述欄一覧」

3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

A B C

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・シラバスに「成績評価基準」を設定し、学生に公開することで公平性を担保している。
- ・Semester毎に、試験実施方式のアンケートを実施し、個別授業の成績評価法を「平常点・授業内試験・試験・レポート」に大別して把握すると共に、分野別に集計し、運営委員会における審議の後、更に分科会・学部と共有することで、検証を行っている。

・毎年 GP 分布を分野別・学年別・学部別に解析し、その結果は運営委員会を通じて分科会・学部で共有することで、横断的な成績評価の適切性を検証している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「2015 年度学年・分野別 GP 平均一覧」

3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。

A B C

【検証体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・毎年授業改善アンケートの「3. 平均予習・復習時間」「4. 授業で身についたこと」を、科目別・分野別に集計し、運営委員会における審議の後、更に分科会・学部と共有することで、検証を行っている。
- ・卒業生アンケートの分野別の満足度について ILAC として独自の解析を行い、学科単位で比較し、それに対応するカリキュラム上・教育方法上の問題が有るかを検証している。2015 年度のデータについては、特に大きな改善点は発見されなかった。
- ・英語分科会では、TOEFL (R)－ITP のスコアを確認している。そのデータは英語のカリキュラム改革の検討の際に利用した。
- ・「法政学への招待」（自校教育）およびキャリア教育関連科目では、定期的に行われる運営委員会で教育成果の検証を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「2015 群・言語別勉強時間集計一覧」

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

A B C

【利用方法】※箇条書きで記入。

- ・前年度の授業評価アンケートの各設問について、分野別・科目別に集計し運営委員会において検証すると共に、分科会・学部と共有することで、更なる検証を促している。
- ・各教員にはシラバス入力項目として「学生による授業改善アンケートからの気づき」を設定し、授業改善アンケートに基づく改善内容の公開を義務づけている。また、一部の科目では、独自のリアクションペーパーを毎回書かせてフィードバックしているほか、学期末試験の際に独自アンケートを実施し、それらを集計・分析して受講学生の現状把握や授業の改善に活用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・独自リアクションペーパー

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・後シラバスについては、全担当教員に入力依頼をしているものの、入力率は残念ながら 50%に満たない。今後、その方式の変更も含めて、実質的な自己点検が可能となるような方策を検討する。

【この基準の大学評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは学生の履修指導は適切に行われており、英語分科会や保健体育分科会などが必要に応じて独自の履修説明やガイダンスを行っていることは評価できる。

学生の学習指導はシラバスに方針が明示され、各教員にオフィス・アワーが設定されることで適切に行われている。

またシラバスに「授業外に行うべき学習活動（準備学習等）」が明記されることで、学生の学習時間を確保するための方策も行われており、各分科会が独自の学習指導体制を整えていることも評価できる。

自然科学分科会、英語分科会、文学部の基礎ゼミ、自校教育科目、キャリア教育関連科目で、それぞれ新たな授業形態の導入に取り組んでおり、高く評価できる。

シラバスが適切に作成されているか、授業がシラバスに沿って行われているかは、それぞれ検証が行われている。

成績評価と単位認定の適切性については、シラバスに明示された「成績評価基準」および個別授業の成績評価法の全体的把握、分野別・学年別・学部別 GP 分布の解析によって確認されており、優れた取り組みである。

学生による授業改善アンケートの科目別・分野別集計および卒業生アンケートの分野別満足度の解析によって、組織的な教育効果の検証を定期的に行っていることは評価できる。また「学生による授業改善アンケートからの気づき」がシラバスで明示されることによって、学生による授業改善アンケートの結果も組織的に利用されている。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

【人文科学分科会】

文学系・思想系・歴史系の各学問分野における知見を身につけ、現在を考察し、未来を展望しうる認識力・判断力・思考力・想像力を養う。

【社会科学分科会】

1. 社会科学領域の学の基本にある、思想、方法、理論を多面的に学ぶことができる。
2. 人間とかかわる歴史、文化、社会、生活の課題に接近する方法、スキルを習得する。
3. 専門領域へ展開する基礎力である、ものの見方・考え方、探求の方法、表現力を養う。

【自然科学分科会】

自然科学系の基礎科目・総合科目を通じて、数学・科学リテラシーを修得し、現代科学が社会に及ぼす影響までを理解すること。

【情報学分科会】

情報を取捨選択して受け取り、自分なりに加工して発信する方法を学び、未来の新しい情報機器やソフトウェアに柔軟に対応していく姿勢を身につける。

【英語分科会】

英語系科目（基礎科目・総合科目）の学習を通じて、以下の知識や能力を涵養する。

1. 世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈のなかで相対化する能力
2. 多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析する能力
2. 専門課程での研究言語および国際語としての英語の運用能力向上のための知識・技能・継続的学習態度

【諸語分科会】

英語以外の外国語を学び、その基礎を習得する。それにより、日本語や英語を相対化するとともに、そのことばが使われている言語圏の社会、文化に関する理解を深める。

【保健体育分科会】

1. 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持・増進や自己管理に資する基礎的な知識や態度を獲得する。
2. 卒業後の実社会において活躍する上で極めて重要であると考えられる、他者とのコミュニケーション、リーダーシップの発揮、問題解決などを可能とするための協調性、社会性など、就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルを獲得する。
3. スポーツ活動を実践することで、他者との親睦を深め、豊かで健康的な学生生活や社会生活を送る能力を獲得する。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。

基本的に、成績評価に基づき学習成果を測定している。(3.4①参照) また、授業改善アンケートの「4. 授業で身についたこと」についての分野別集計結果に基づいて、学生の達成感のチェックも行っている。

また英語分科会では、1年生が受験する TOEFL(R)-ITP のスコアを確認している他、個別授業においては、学生の事前・中間レポートと最終レポートの比較からの成果の測定や、リアクションシートを利用した成果の確認が行われているケースが多く見られる。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②成績分布の状況を把握していますか。	はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の学年別・分野別・科目別・学科別の成績分布を集計し、運営委員会で検討後、分科会・学部と共有することで、成績分布及びEスコア（試験放棄）の割合を検証している。 自然科学分科会におけるオムニバス形式授業の「自然総合講座（サイエンス・ラボ）A・B」では、全体的な成績の分布傾向を把握しており、授業間でGPAに偏りがある時には兼任講師も含めた担当教員全体に周知されている。 諸語分科会の一部の言語では統一試験を実施することによって市ヶ谷全体の成績分布を把握している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「2015年度学年・分野別 GP 平均一覧」 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> 2017年度より実施予定の、体系性を持つ新カリキュラムの構築に伴い、学位授与方針の修正・改訂が必要になると思われるので、各分科会で検討する。
--

【この基準の大学評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、成績評価のみならず学生による授業改善アンケートを組織的に利用し、各分野別に学生の達成感をチェックして学習成果を測定していることは評価できる。成績分布の状況についても、運営委員会が中心となって適切に把握されている。

5 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。	
①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。	はい いいえ
<p>【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的な質保証活動は、運営委員会で行われている。 分野別の質保証活動は、各分科会及び科目別運営委員会で行われている。特に英語分科会では独自の内部質保証委員会を置いている。また、「法政学への招待」・キャリア関連科目・学部別「基礎ゼミ」については、独自の運営組織による質保証が行われている。 授業以外の教育プロセス（履修指導など）の質保証は、学部で行われている。それらの質保証における必須・オプションのプロセスを項目化し、チェックシートにまとめることで、「質保証の可視化」を行っている。 2013年度から「内部質保証委員」を置き、上記の各質保証組織（運営委員会、7分科会、6学部）から提出されたチェックシート（現状分析シート）の内部監査を行っている。そこで出された、疑問点・改善点の指摘をうけて、各質保証プロセスはその改善を図る。 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、運営委員会で全体的な質保証活動が行われ、各分科会および科目別運営委員会で分野別の質保証活動が行われている。各運営委員会および分科会の質保証活動をチェックする「内部質保証委員会」が設置され、適切に活動している。各学部と授業の関係を明らかにするため、「質保証の可視化」を行っていることは、高く評価できる。

小金井リベラルアーツセンター

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb実施によって回答率向上のための施策検討が重点目標のひとつになっているが、このアンケートが教員の資質向上に果たした役割は大きいとみられるので、その項目の見直しとともに、その成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、各分科会・学部教授会の大方の合意を取り付けた「カリキュラム・フレームワーク」の具体的な取り組みと、実質的なカリキュラムの体系化の方途の検討に期待したい。

小金井リベラルアーツセンターでは、国際化に対応できる英語力の強化、理系基礎科目の点検・強化が重点目標として設定されており、その目標は明確であるためその成果に期待したい。

学習環境支援センターでは、学習環境支援に関係する部局職員による「相互連携の創意工夫」を重点目標として掲げ、ボトムアップ型の会議体の運営・組織づくりを目指して学生の学習環境支援を充実させようとしていることは、ひとつのあり方として評価できる。とくに、校舎建替え工事に伴う学習環境への影響については特段の配慮を願いたい。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

「国際化に対応できる英語力の強化」については「英語教育改善検討プロジェクト」にセンター長参加のうえ協議を継続している。カリキュラム変更の効果は検証中であるため、プロジェクトの答申にまでは至っていない。「理系基礎科目の点検・強化」については、新シラバス・教科書の導入効果について履修状況とともに運営委員会に報告し状況を把握・共有している。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【小金井リベラルアーツセンター執行部の構成、分科会の名称・役割・責任体制】※箇条書きで記入。

執行部：センター長、副センター長（各1名）

分科会：英語、人文・社会、保健体育、諸語、リテラシー、自然科学の6つの分科会

各分科会代表を中心に、時間割・担当者・コマの配置について責任を担っており、シラバスチェックなど具体的施策を通じて質保証も行っている。

カリキュラムについて、学部執行部も委員として参加する運営委員会の審議・承認事項にしていることで、KLACによる教養教育への責任体制を敷いている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・小金井リベラルアーツセンター規程

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※リベラルアーツセンターの提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

教養教育担当の教員数については、理工学部教授会、生命科学部教授会およびKLACの三者で審議している。不足する場合は学部執行部により理事会に要望を出している。このようにして、KLAC・学部の責任分掌を明確にしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）等内のFD活動は適切に行われていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業相互参観：一部科目で授業公開を行った。 ・FD アンケートに加えて独自アンケートを実施（「科学実験」） ・履修者数推移調査（「科学実験」） 【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観報告書 ・公開科目一覧表（自然科学） ・（科学実験）独自アンケート ・（科学実験）履修者数推移集計 			

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・教養教員の不足について KLAC での検討・要求結果が学部を通じて上程され、2017 年度から一部、新規採用を行う予定となった。	1. 2①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・小金井キャンパスを構成するもう 1 つの学部＝情報科学部の KLAC への正式参加と、その役割・効果を明らかにする。 ・教員の授業相互参観を兼任教員担当科目に拡大する。
--

【この基準の大学評価】

<p>規程に基づき、小金井リベラルアーツセンターは執行部を構成し、各分科会に代表が置かれており、また関連する学部執行部が委員として参加する運営委員会がカリキュラム等を承認することで、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしている。教員組織については、理工学部教授会、生命科学部教授会と小金井リベラルアーツセンターが三者で審議することによって、カリキュラムにふさわしいものとしているが、今後の対応にも記載があるように、小金井キャンパスを構成する情報科学部もそこに加わることが望ましい。教員による授業参観、学生による授業改善アンケートなど FD 活動が適切に行われており、加えて独自アンケートや履修者数推移調査を実施していることは評価できる。</p>

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。			
①幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目について、3 つの「科目群」とそれを細分化した「系」に区分している。 ・各「系」の科目の履修者数を把握することで、偏りのない履修の検証を行っている。 ・体育実技科目ではコマごとの受講者数集計で全体把握を行っている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・科目別履修者数集計 ・受講者数集計（体育） 			
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されている			

か概要を記入。

初年次教育：「科学実験ⅠⅡⅢ」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」により、実験レポートの書き方、プレゼンテーション方法の修得をさせている。

キャリア教育：教養科目「キャリアデザイン」「科学技術史」「先端技術・社会論」「技術者倫理」「情報倫理」「文章作法」により、キャリアデザインの修得の他、技術と実社会との繋がりも意識させている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・該当科目のシラバス
- ・ガイダンスでの資料
- ・「理工学部生のための履修の手引き」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・リテラシー科目における ICT スキル能力の達成度を検証する。
- ・リメディアル科目の効果を測定し、KLAC の役割を検討する。
- ・キャリア教育としてのインターンシップの実態を検証する。

【この基準の大学評価】

小金井リベラルアーツセンターでは、幅広い教養を身につけられる科目を 3 つの「科目群」とそれを細分化した「系」に区分し、履修者数を「系」ごとに把握することで総合的な判断力を培うことができる教育課程を編成している。初年次教育とキャリア教育が適切に提供されており、初年次教育では実験科目が充実し、キャリア教育では技術と実社会の繋がりを意識させている点が優れている。

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・「理工学部生のための履修の手引き」、「生命科学部生のための履修の手引き」において、科目区分ごとの目標を明示している。
- ・英語および諸外国語については、語学ガイダンスを実施しているほか、実験科目のガイダンスや「履修の手引き」の改訂も行っている。
- ・教養科目の履修について、事務部と担当教員との連携による履修指導がおこなわれている。
- ・抽選のある科目について抽選漏れした場合には空きのあるクラスを紹介することで、履修に支障はきたしていない。
- ・自然科学科目ではプレースメントテストの実施により、適切かつ必須な科目履修を行わせる仕組みを持っている。このためのリメディアル科目も 2015 年度に設置した。
- ・実技科目（体育など）では授業内での指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「理工学部生のための履修の手引き」
- ・「生命科学部生のための履修の手引き」
- ・「選択語学ガイダンス」実施案内 PPT
- ・(自然科学) 履修指導用 PPT

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>教養科目としての英語科目、諸外国語科目および実験系科目でレポートの添削指導を行うなど、各科目で具体的な学習指導をしている。人文社会系科目では課題作文を課す、参考資料の紹介をするほか、他の分野に興味のある学生に対して個別指導を行っている。また、海外留学を希望する学生、語学検定の資格を取得したい学生に対して個別相談と学習指導を行っている。</p> <p>自然科学では TA、チューターも、学習指導全般に活用している。</p> <p>実技科目（体育など）では授業内での指導を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目のシラバス ・(化学実験)「レポートの書き方」「レポートチェック事項」 ・チューター相談時間記録 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>科学実験では、毎回レポートを課し、レポートに予習・復習を盛り込むことにより、学習時間が確保されている。また、物理実験では、授業時間内提出のレポートと 1 週間後提出のレポートを課し、学習時間の増加を図るとともに、レポート提出の際には試問をおこなうなどして知識の定着を確認している。</p> <p>英語では多読を推奨し読書の記録を提出させて総語数による学習動機向上を図っている。</p> <p>リテラシー科目では課題の提示と自己学習（復習用）の資料提供で学習時間増加を促進している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当科目のシラバス ・(化学実験)「レポートの書き方」「レポートチェック事項」 ・(実験科目) ガイダンス資料 	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学教育に関しては、新たな授業形態の取り組みとして、SA プログラムの単位認定を、教養科目の「科学技術コミュニケーション演習」としておこなっている。 ・英語教育改善検討プロジェクトの設置による英語能力の向上、諸外国語の一部の授業では実験的にアプリを使用して発音指導と作文添削などを行っている。 ・科学実験では、終了後に話す能力と聞く能力を育成する目的のためにグループディスカッションをおこない、座学重視ではない授業形態の展開に取り組んでいる。 ・リテラシー科目では座席指定や個人の意見発表を授業に盛り込むなどアクティブラーニングの導入を心掛けている。 ・体育科目では 2015 年度より受講者に「体力テスト」を課し、自身の把握を促すほか集計結果を分科会内で分析する。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音指導・作文添削アプリ ・体力テスト実施要領、集計結果 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全科目（授業）に対して分科会代表による全科目シラバスチェックを行った。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(自然科学) シラバス結果による所見の配信（メール） ・(実験科目) 成績判定会議議事録 	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科目・諸外国語科目では打ち合わせ会で議論されている。 ・その他の分科会では専任および兼任を含めた担当教員同士の懇談会や業務連絡で検証している。 ・自然科学分科会では「後シラバス」を実施した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

・特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生申告による成績評価の調査申請が制度化されている。 ・英語科目では試験答案の学生への返却をも実施している。 ・理系教養科目数学系の複数教員担当科目における成績の比率調整など成績基準を打合せている。 ・英語習熟度別クラス分けによる難易度の不公平感を検討し、その改善策を履修の手引きに反映している。 ・リテラシー科目では定量的な基準を導入している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・履修の手引き ・(実験科目) 成績判定会議議事録 	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・在学生全員参加の3回のTOEIC試験を実施することによって、英語科目の習熟度別クラス運営に活用している。 ・プレースメントテスト、理系教養科目(数学・物理)について成績の推移を入試経路別に調査している。 ・数学では再履修者の成績について追跡調査を行った。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC実施案内 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートの、学生の自由記述について、求めに応じて学部執行部に展開した。 ・理工学部では回答した学生のGPA値と対比できる形で各教員にフィードバックしている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・数学系科目のシラバスの改定に伴う内容消化度合いの検証を行う。 ・TOEIC3回実施の効果を検証する。
--

【この基準の大学評価】

<p>小金井リベラルアーツセンターでは学生の履修指導が適切に行われており、自然科学科目で適切かつ必須な科目履修を実現するため、リメディアル科目を設置しながらクラス分け試験を行っていることは高く評価できる。学生の学習指導は、各科目におけるレポートの添削指導や課題作文を中心に適切に行われており、個別指導やチューター制度が充実していることは評価できる。</p> <p>学生の学習時間(予習・復習)については、シラバスに記載があるように科学実験や物理実験ではレポート提出を中心に、英語やリテラシー科目では相応の課題を出すことで、適切に確保するための方策が行われている。</p> <p>教育上の目的を達成するため、語学科目、実験科目、リテラシー科目、体育科目などで新たな授業形態の導入に取り組んでおり、成果が期待される。</p> <p>シラバスが適切に作成されているか検証を行うため、分科会代表が全科目についてシラバスチェックを行い、授業がシラバスに沿って行われているかどうかについては、英語科目・諸外国語科目では打ち合わせ会で、その他の分科会では懇</p>

談会や業務連絡で検証している。

成績評価の調査申請が制度化され、科目によっては試験答案の返却、成績の比率調整、定量的な基準の導入などを行うことによって、成績評価と単位認定の適切性を確認している。また TOEIC 試験を利用した習熟度別クラス運営、入試経路別の成績調査によって、組織的な教育成果の検証を定期的に行っていると認められる。学生による授業改善アンケート結果については、組織的に利用しているとまでは言えないが、自由記述については関連する学部が把握できるようになっており、理工学部では適切なフィードバックが行われている。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。 FDアンケートの評価による把握、実技科目では授業内の達成度の確認で行っている。 英語科目ではTOEIC成績の集積を行い、KLAC運営委員会にもフィードバックした。 実験科目では、プレゼンや試問により実験内容の理解度・到達度も測定している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・TOEIC実施結果(集計)	
②成績分布の状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法等】 ※箇条書きで記入。 ・英語分科会では昨年度作成した英語成績分布のガイドラインについて授業打ち合わせ会で話し合った。 ・「科学実験Ⅱ」において、全クラスの正規分布の年次推移を集計、担当教員間で共有したほか、試験放棄者の割合も情報共有している。 ・リテラシー科目ではGP集計結果や出欠情報システムにより試験放棄の実態を把握している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「科学実験Ⅱ成績分布推移」	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・成績データに関するKLAC独自の分析を行い、その効果を検討する。 ・数学の必修化の効果を検証する。

【この基準の大学評価】

小金井リベラルアーツセンターでは、学生による授業改善アンケートや授業内の達成度によって学生の学習成果を測定しており、英語科目でTOEIC成績の集積を行って運営委員会で共有していることは、高く評価できる。また成績分布の状況については、英語分科会やリテラシー科目、「科学実験Ⅱ」といった個別の科目で把握しているが、小金井リベラルアーツセンターとして成績データに関する独自の分析を行うという今後の対応が期待される。
--

5 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 内部質保証システム(質保証委員会等)を適切に機能させているか。	
①質保証活動に関する各種委員会(質保証委員会等)は適切に活動していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】 ※箇条書きで記入。

- ・運営委員会のもと、自己点検委員会を年に3回開催した。
- ・運営委員会は欠席の場合は代理出席を求めており、教員の参加状況はほぼ100%。
- ・分科会レベルでは集会の他、メールによる授業改善の意見交換を日常的に行っている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・内部質保証について、よりシステムティックに、また継続的に行えるよう、運営委員会にて「チェックシート」を開発し、執行部・分科会代表・学部代表委員ともルール化された作業を行った。	5.1①

【この基準の大学評価】

小金井リベラルアーツセンターでは、運営委員会を中心に質保証活動を適切に行っており、各分科会では、日常的に授業改善の意見交換を行っていることが評価できる。

学習環境支援センター

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb実施によって回答率向上のための施策検討が重点目標のひとつになっているが、このアンケートが教員の資質向上に果たした役割は大きいとみられるので、その項目の見直しとともに、その成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、各分科会・学部教授会の大方の合意を取り付けた「カリキュラム・フレームワーク」の具体的な取り組みと、実質的なカリキュラムの体系化の方途の検討に期待したい。

小金井リベラルアーツセンターでは、国際化に対応できる英語力の強化、理系基礎科目の点検・強化が重点目標として設定されており、その目標は明確であるためその成果に期待したい。

学習環境支援センターでは、学習環境支援に関する部局職員による「相互連携の創意工夫」を重点目標として掲げ、ボトムアップ型の会議体の運営・組織づくりを目指して学生の学習環境支援を充実させようとしていることは、ひとつのあり方として評価できる。とくに、校舎建替え工事に伴う学習環境への影響については特段の配慮を願いたい。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2015年度も当センター運営委員会（運営委）を年10回開催し、「関係部局職員による相互連携」を深めてきた。運営委では毎回、関係全部局が学習環境モニタリングのための所管データを各自持ち寄りつつ、その都度環境改善のための課題を集約し相互の事情やアイデアを共有しながら、解決案を全員で検討していく組織文化が根付いている。なお、上記「校舎建替え工事」への対応として、市ヶ谷キャンパス建替工事「フェーズⅡへの移行」（58年館・富士見校舎間での鋼板塀設置）に際し、キャンパス内南北間の移動動線を確保するため、施設部及び図書館を中心に運営委で関係全部局参加の議論を重ね、「富士見校舎ラーニングコモンズ・図書館間の館内新規移動動線案」をまとめて常務理事会及び部長会議に提案、了承を得た。

II 自己点検・評価

1 教育研究等環境

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

①学生の主体的な学習を支援するための取り組みを行っていますか。

A B C

【学生の主体的な学習を支援するための取り組み】 ※箇条書きで記入。

①施設整備による対応（ハード面）

- ・2015年度の運営委において「ゾーニング（用途エリアの明確化など、利用者属性別施設特性の効率性を踏まえた機能再配置）」をテーマに議論を重ね、各キャンパスとも課題を一定程度明確化した。
- ・建替工事（市ヶ谷校地）など外部環境の変化が当面著しく続くため、具体的なゾーニングの企画開発は途上である。
- ・「ピアラーニングスペース」（2014年度の当センター企画により2015年4月に開設）の計画的運用や上述の図書館内新規移動動線の開発など、部局間での議論の成果を直近の問題解決に活かしてきている。

②学生の相互学習活動の支援（ソフト面）

- ・当センター下部組織「学習ステーション」が中心となり、各部局における「正課外教育活動」の相互連携強化を行ってきた。その具体策が「ピアネット（学生によるピアネット活動の結果発生する相互学習のネットワーク化）」支援である。
- ・ピアネット活動実態・履歴を記録するシステムである「e-ポートフォリオ」の導入に伴い、「ピアネット・コンピテンシーチェックシート」を作成した。これによりピアネット活動のデータが集約・可視化され、学生に対しては「活動証明書」を発行した。また利用状況のデータ解析および改善点の検討を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「学習施設ガイド」
- ・「ピアネットガイド」
- ・「ピアネット・コンピテンシー」
- ・「ピアネット・コンピテンシー チェックシート」
- ・「活動証明書」
- ・「システムへのアクセス状況およびチェックシート提出状況」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・「ピアネット・コンピテンシー」 【概要】「授業だけでは得られない能力(コンピテンシー)をピアネット活動で身につける」をテーマに、同活動に参加した学生の能力評価に際し、各能力を解りやすく概念化するとともに、そのあり方及び全体像を解説している文書。 ・「ピアネットコンピテンシー チェックシート」 【概要】計12項目に及ぶ各コンピテンシー（「スケジュール管理能力」、「情報発信力」など）について、それぞれの現状を段階的にセルフチェックする評価シート。 ・「システムへのアクセス状況およびチェックシート提出状況」 【概要】活動単位ごとのシステムへのアクセス数、チェックシート提出数の記録。 	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・市ヶ谷キャンパス建替工事が最も制約条件の多い「フェーズⅡ」に移行し、学習環境への悪影響が多面で顕在化すると見られることから、運営委における議論の重心を工事対応にシフトさせていく（建替工事に特化したハード面での対応）。
- ・「ピアネットコンピテンシーチェックシート」による評価データ分析システムの運用が始まりソフト面での対応として一つの区切りが見えたことから、その関連諸活動を統括してきた会議体「正課外教育プロジェクト」のこれまでの活動内容を文書化しつつ、活動の経緯及びノウハウの整理を行う（これまでのソフト面での対応を一旦整理）。
- ・「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」が「アクティブラーニング（実践知育成の学び）」の新規策定を目指していることから、その進捗を踏まえつつ当センターの対応のあり方について具体的に検討し、必要に応じて具体策を検討する。

【この基準の大学評価】

学習環境支援センターでは、施設設備による対応と学生の相互学習活動の支援という両面から、学生の主体的な学習を支援するための取り組みを行っている。とくに下部組織である「学習ステーション」が中心となっていく、「ピアネット（学生によるピアネット活動の結果発生する相互学習のネットワーク化）」は、ピアネットの活動の集約・可視化と合わせて大

変優れた取り組みである。今後の成果が期待される。

2 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・教育開発支援機構長、図書館長、学習ステーション長、プロジェクト・リーダーおよび学習支援を担う各事務部局職員が出席する学習環境支援センター運営委員会を年10回開催し、質保証についての検討を行っている。
- ・学習環境支援センター長が教育開発支援機構企画委員会（年10回開催）に出席して活動報告を行うことにより、同企画委員会委員である3キャンパス教員、同機構に属する他センターからの意見聴取、相互評価がなされている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

学習環境支援センターでは、教育開発支援機構長、図書館長、学習ステーション長、プロジェクト・リーダーおよび学習支援を担う各事務部局職員が出席する、学習環境支援センター運営委員会を中心として、質保証活動を適切に行っている。

【大学評価総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb化による回答率低下という問題について、複数の現実的に可能なかぎりの施策を行っており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。ただし回答率自体は、アンケートがこれまで果たしてきた役割に見合うほどには回復しなかったため、2017年度春学期に実施するアンケートから抜本的な変更を提案するという今後の対応を含め、十分な対応を行ったものと評価できる。今度も継続して各FDプロジェクトと「学生による授業改善アンケート」の成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の再配置案がまとまり、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分であると認められる。今後は関連する各学部の承認を得て、2017年度から実施できる具体的な内容が検討され、目的とするカリキュラムの体系化が適切に協議されることが望まれる。

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更の可能性も含めて協議が継続しており、また「理系基礎科目の点検・強化」については現状を把握する点検作業が進められている。2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われているが、今後も対応を継続し「国際化に対応できる英語力の強化」と「理系基礎科目の点検・強化」においてより具体的な施策の検討が行われることを期待したい。

学習環境支援センターでは、部局職員による「相互連携の創意工夫」が可能な組織文化を生かし、ピアネットの可視化など学生の学習環境支援を充実する活動を行い、市ヶ谷キャンパスの「校舎建替え工事」についても適切な動線確保に尽力しており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応状況は高く評価できる。今後も制約が多くなる校舎建て替え工事の状況に対応し、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

なお、近年の高等教育動向を踏まえた全学的な教学改革事項の増加に伴い、教育開発支援機構としての業務（センターに属さない業務）も増加し、機構長に業務比重や責任がやや集中しているきらいがある。このまま機構としての業務量が増加し続けるのであれば、従前のままの体制では将来的に機構運営に支障をきたすことも考えられる。例えば、各センター長を副機構長としたり、機構内の再編により各キャンパス1名程度の若手の副機構長を配置したりするなど、機構長を補佐しうる執行部体制を検討することも一案である。機構の業務が増加する現状に鑑み、法人による全学や機構内の人員配置の見直しの中で、機構の執行部の充実をはかっていただきたい。